

目次

序文

第 1 章: 競技会実施規則

- 第 1 条 : 各カテゴリーの定義
- 第 2 条 : 年齢及び体重による大会の分類及びその詳細
- 第 3 条 : プレ・ジュニア部門競技会のカテゴリーとクラスについて
- 第 4 条 : ジュニア部門競技会のカテゴリーとクラスについて
- 第 5 条 : 青年部門競技会のカテゴリーとクラスについて
- 第 6 条 : 成人部門競技会のカテゴリーとクラスについて
- 第 7 条 : マスター(Pendekar)部門競技会のカテゴリーとクラスについて
- 第 8 条 : アリーナ(試合場)及びその備品について

第 2 章: 試合実施規定

- 第 9 条 : タンディング TANDING (試合)カテゴリー
- 第 10 条 : トゥンガル TUNGGAL (ソロ演武) カテゴリー
- 第 11 条 : ガンダ GANDA (ダブルス演武) カテゴリー
- 第 12 条 : ルダ REGU (チーム演武) カテゴリー
- 第 13 条 : 判定不服の場合
- 第 14 条 : テクニカル・ミーティング

第 3 章: 競技会実行委員会 (省略)

- 第 15 条 : 実行委員会の組織と任命
- 第 16 条 : 実行委員会の職務と責任
- 第 17 条 : 実行委員会の制服規定

第 4 章: プンチャック・シラット国際競技会

- 第 18 条 : プンチャック・シラット国際競技会の階層

第 5 章: 終章

- 第 19 条 : その他

附図

附図 1: アリーナ

Picture 2a : Some of the arena equipments

Picture 2b : Some of the arena equipments

Picture 3 : Pesilat costume for Tanding category
Picture 4 : Trunk protector
Picture 5 : The Coach costume
附図 6:タンディング・カテゴリー配置図
附図 7:Pola Langkah 例
Picture 8 : Scoring area / target
Picture 9a : Examples of dropping technique
Picture 9b : Examples of dropping technique
Picture 9c : Examples of dropping technique
Picture 10 : Pesilat costume of Tunggal category
Picture 11 : Golok/Parang and Tongkat
附図 12:TGR用アリーナ
Picture 13 : Pesilat costume for ganda/double category
Picture 14a: Weapons for ganda/double category
Picture 14b: Weapons for ganda/double category
Picture 15 : Costume for Regu/Team category
Picture 16 : Chart of Pencak Silat Competition Committee
附図 17:競技会実行委員長/副委員長の服装
附図 18:審判委員長の服装
附図 19:レフェリーと審判員の服装

プンチャック・シラット国際競技会規則

序文

プンチャック・シラット国際競技会は同胞愛の精神と、護身術・芸術・スポーツとしてのプンチャック・シラットの原理、及び崇高なPesilat(プンチャック・シラットの選手)の誓い「IKRAR PESILAT」に従う武人の魂に基づき開催される。

競技会は、本プンチャック・シラット国際競技会規則の中に定義される各カテゴリーと、正式な権限を有効な証書にて証明できる大会運営者によって運営、実施される。

プンチャック・シラット競技会は以下のカテゴリーから成る。

- I TANDING (試合)カテゴリー
- II TUNGGAL (ソロ演武) カテゴリー
- III GANDA (ダブルス演武) カテゴリー
- IV REGU (チーム演武) カテゴリー

プンチャック・シラット競技会をその趣旨と目的に沿うように開催するためには、以下に規定するプンチャック・シラット国際規則に従うことである。

第 1 章 競技会実施規則

第 1 条：各カテゴリーの定義

1. TANDING (試合)カテゴリーとは：

異なるチームの 2 名のPesilat(プンチャック・シラットの選手)の間で行われる競技である。両 Pesilat は、攻撃及び防御の要素を用いて互いに対峙し、より多くの点を獲得するべく競い合う。攻撃及び防御の要素とはつまり； 相手(の攻撃)をかわし/動き/(自身の攻撃を)命中させ/攻め倒す、戦略・技術を競う、体力・闘志を保持する、豊富な jurus(型)と技を活かしてプンチャック・シラットの kaidah(原理)を活かす などである。

2. TUNGGAL (ソロ演武) カテゴリーとは：

1 名のPesilat(プンチャック・シラットの選手)が、正確で誤りのない十分な技術と充実した精神性を、素手及び武器を使用して規定された Jurus Tunggal Baku (ソロ演武規定型)の成熟度を披露する競技である。

3. GANDA (ダブルス演武) カテゴリーとは:

同じチームの 2 名のPesilat(ブンチャック・シラットの選手) が、体得した攻撃と防御の jurus(型)技術の豊富さと成熟度を披露する競技である。攻撃と防御の動きは、よく計算され実効的かつ芸術的で成熟しており、かつ、論理的でなければならない。これらは素手で対峙することから始まり、GANDA カテゴリーに規定された武器に屈する形で終わる一連の動きの連なりの中で披露される。

4. REGU (チーム演武) カテゴリーとは:

同じチームの 3 名のPesilat(ブンチャック・シラットの選手) が、正確で誤りのない十分な技術と充実した精神性及び調和を、素手で行う規定された Jurus Regu Baku (チーム演武規定型)の成熟度を披露する競技である。

第 2 条: 年齢及び体重による大会の分類及びその詳細

1. プンチャック・シラット競技会は、性別及び年齢そして体重によって以下のとおり分類される。

- 1.1. プレ・ジュニア部門競技会は、10 歳以上 12 歳未満の男女で構成される。
- 1.2. ジュニア部門競技会は、12 歳以上 14 歳未満の男女で構成される。
- 1.3. 青年部門競技会は、14 歳以上 17 歳未満の男女で構成される。
- 1.4. 成人部門競技会は 17 歳以上 35 歳以下の男女で構成される。
- 1.5. マスターI 部門競技会は、35 歳以上 45 歳未満の男女で構成される。
- 1.6. マスターII 部門競技会は、45 歳以上の男女で構成される。

2. Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)の年齢及び国籍は、出生証明書/卒業証明書/旅券の原本あるいは登録済みの複写により立証されなければならない。

3. Pesilatの年齢は、当該選手の参加競技会(プレ・ジュニア、ジュニア、青年、成人、マスターI、マスターII)の規定する年齢に、当該競技会の開始初日において一致していなければならない。(この条文は全カテゴリーに適用される)

4. 体重によるクラス分けが行われるのは、TANDING (試合)カテゴリーのみである。

4.1. 全ての計量において、誤差の許容は認められない。

4.2. 計量は、規定された予定表に従い、当該Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)の試合 15 分前に行われる。

- 4.3. 計量に臨むにあたり Pesilat は、急所用防具とあらゆる関節用防具及び sabuk(帯)を除き、乾いたパンチャック・シラット道着のみを身に着けなければならない。
- 4.4. 計量結果が出場するクラスの体重規定に符合しない場合、当該 Pesilat は失格となる。
- 4.5. 計量は一度のみ行われ、必ず 2 名のチーム関係者(コーチあるいはチームマネージャー)と競技委員長に任命された審判が立ち会わなければならない。
- 4.6. 計量担当者と両チームの関係者は、競技会開催委員会が準備した計量結果記録用紙にサインしなければならない。一方のチーム関係者がサインを拒んだ場合でも、当該計量結果記録は有効である。
- 4.7. 計量担当者は競技会開催者に任命され、役割を果たす。

5. 健康状態の確認

- 5.1. 全Pesilat(^{プシラット}パンチャック・シラットの選手)は有効な健康診断書を持参しなければならない。つまり、正当な(インドネシア語原文: 公立病院あるいは地域医療センターに所属する)医師によって、競技会開催初日の 1 か月前以内に発行された健康診断書が必要である。
- 5.2. いかなる理由があろうとも、試合開始前に健康診断書を提示できなかった Persilat は失格となる。
競技会運営事務局は、当該チームが自己負担において健康診断を行える競技会開催地の医師/病院を推薦できる

第 3 条: プレ・ジュニア部門競技会のカテゴリとクラスについて

プレ・ジュニア部門競技会は、以下のカテゴリ及びクラスから構成される。

1. ^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリは以下のクラスから構成される。

1.1. ^{タンディング}男子TANDING (試合)

1.1.1. A クラス	26 kg 以上	28 kg まで
1.1.2. B クラス	28 kg 以上	30 kg まで
1.1.3. C クラス	30 kg 以上	32 kg まで
1.1.4. D クラス	32 kg 以上	34 kg まで
1.1.5. E クラス	34 kg 以上	36 kg まで
1.1.6. F クラス	36 kg 以上	38 kg まで
1.1.7. G クラス	38 kg 以上	40 kg まで
1.1.8. H クラス	40 kg 以上	42 kg まで
1.1.9. I クラス	42 kg 以上	44 kg まで
1.1.10. J クラス	44 kg 以上	46 kg まで
1.1.11. K クラス	46 kg 以上	48 kg まで

- 1.1.12. Lクラス 48 kg 以上 50 kg まで
- 1.1.13. Mクラス 50 kg 以上 52 kg まで
- 1.1.14. Nクラス 52 kg 以上 54 kg まで
- 1.1.15. Oクラス 54 kg 以上 56 kg まで
- 1.1.16. Pクラス 56 kg 以上 58 kg まで
- 1.1.17. 無差別クラス 56 kg 以上 60 kg まで

1.2. ^{タンディン}女子TANDING (試合)

- 1.2.1. Aクラス 26 kg 以上 28 kg まで
- 1.2.2. Bクラス 28 kg 以上 30 kg まで
- 1.2.3. Cクラス 30 kg 以上 32 kg まで
- 1.2.4. Dクラス 32 kg 以上 34 kg まで
- 1.2.5. Eクラス 34 kg 以上 36 kg まで
- 1.2.6. Fクラス 36 kg 以上 38 kg まで
- 1.2.7. Gクラス 38 kg 以上 40 kg まで
- 1.2.8. Hクラス 40 kg 以上 42 kg まで
- 1.2.9. Iクラス 42 kg 以上 44 kg まで
- 1.2.10. Jクラス 44 kg 以上 46 kg まで
- 1.2.11. Kクラス 46 kg 以上 48 kg まで
- 1.2.12. Lクラス 48 kg 以上 50 kg まで
- 1.2.13. Mクラス 50 kg 以上 52 kg まで
- 1.2.14. Nクラス 52 kg 以上 54 kg まで
- 1.2.15. Oクラス 54 kg 以上 56 kg まで
- 1.2.16. Pクラス 56 kg 以上 58 kg まで
- 1.2.17. 無差別クラス 56 kg 以上 60 kg まで

- 2. ^{トゥンガル}Tunggal(ソロ演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 2.1. ^{トゥンガル プウトラ}Tunggal Putra (男子ソロ)
 - 2.2. ^{トゥンガル プウトリ}Tunggal Putri (女子ソロ)
- 3. ^{ガンダ}Ganda(ダブルス演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 3.1. ^{ガンダ プウトラ}Ganda Putra (男子二人組)
 - 3.2. ^{ガンダ プウトリ}Ganda Putri (女子二人組)
- 4. ^{ルグ}Regu(チーム演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 4.1. ^{ルグ プウトラ}Regu Putra (男子チーム)

4.2 ^{ル グ ブウトリ} Regu Putri (女子チーム)

全ての^{タンディング トウンガル ガン ダ ル グ}Tanding/Tunggal/Ganda/Regu カテゴリーは、当該^{プシラット}Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)が満たす出場資格要件に従って参加できる。

第 4 条:ジュニア部門競技会のカテゴリーとクラスについて

ジュニア部門競技会は、以下のカテゴリー及びクラスから構成される。

1. ^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリーは以下のクラスから構成される。

1.1. ^{タンディング}男子TANDING (試合)

1.1.1. A クラス	30 kg	以上	33 kg	まで
1.1.2. B クラス	33 kg	以上	36 kg	まで
1.1.3. C クラス	36 kg	以上	39 kg	まで
1.1.4. D クラス	39 kg	以上	42 kg	まで
1.1.5. E クラス	42 kg	以上	45 kg	まで
1.1.6. F クラス	45 kg	以上	48 kg	まで
1.1.7. G クラス	48 kg	以上	51 kg	まで
1.1.8. H クラス	51 kg	以上	54 kg	まで
1.1.9. I クラス	54 kg	以上	57 kg	まで
1.1.10. J クラス	57 kg	以上	60 kg	まで
1.1.11. K クラス	60 kg	以上	63 kg	まで
1.1.12. L クラス	63 kg	以上	66 kg	まで
1.1.13. M クラス	66 kg	以上	69 kg	まで
1.1.14. N クラス	69 kg	以上	72 kg	まで
1.1.15. 無差別クラス	69 kg	以上	75 kg	まで

1.2. ^{タンディング}女子TANDING (試合)

1.2.1. A クラス	30 kg	以上	33 kg	まで
1.2.2. B クラス	33 kg	以上	36 kg	まで
1.2.3. C クラス	36 kg	以上	39 kg	まで
1.2.4. D クラス	39 kg	以上	42 kg	まで
1.2.5. E クラス	42 kg	以上	45 kg	まで
1.2.6. F クラス	45 kg	以上	48 kg	まで
1.2.7. G クラス	48 kg	以上	51 kg	まで
1.2.8. H クラス	51 kg	以上	54 kg	まで
1.2.9. I クラス	54 kg	以上	57 kg	まで
1.2.10. J クラス	57 kg	以上	60 kg	まで
1.2.11. K クラス	60 kg	以上	63 kg	まで
1.2.12. L クラス	63 kg	以上	66 kg	まで
1.2.13. M クラス	66 kg	以上	69 kg	まで

- 1.2.14. N クラス 69 kg 以上 72 kg まで
- 1.2.15. 無差別クラス 69 kg 以上 75 kg まで

- 2. ^{トゥンガル}Tunggal(ソロ演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 2.1. ^{トゥンガル} ^{プトラ}Putra (男子ソロ)
 - 2.2. ^{トゥンガル} ^{プトリ}Putri (女子ソロ)
- 3. ^{ガンダ}Ganda(ダブルス演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 3.3. ^{ガンダ} ^{プトラ}Ganda Putra (男子二人組)
 - 3.4. ^{ガンダ} ^{プトリ}Ganda Putri (女子二人組)
- 4. ^{ルグ}Regu(チーム演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 4.3. ^{ルグ} ^{プトラ}Regu Putra (男子チーム)
 - 4.4. ^{ルグ} ^{プトリ}Regu Putri (女子チーム)

全ての^{タンディング}Tanding/^{トゥンガル}Tunggal/^{ガンダ}Ganda/^{ルグ}Regu カテゴリーは、当該^{プシラット}Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)が満たす出場資格要件に従って参加できる。

第 5 条 : 青年部門競技会のカテゴリーとクラスについて

青年部門競技会は、以下のカテゴリー及びクラスから構成される。

- 1. ^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 1.1. ^{タンディング}男子TANDING (試合)
 - 1.1.1 A クラス 39 kg 以上 43 kg まで
 - 1.1.2. B クラス 43 kg 以上 47 kg まで
 - 1.1.3 C クラス 47 kg 以上 51 kg まで
 - 1.1.4 D クラス 51 kg 以上 55 kg まで
 - 1.1.5 F クラス 55 kg 以上 59 kg まで
 - 1.1.6 F クラス 59kg 以上 63 kg まで
 - 1.1.7 G クラス 63 kg 以上 67 kg まで
 - 1.1.8 H クラス 67 kg 以上 71 kg まで
 - 1.1.9. I クラス 71 kg 以上 75 kg まで
 - 1.1.10 J クラス 76 kg 以上 79 kg まで
 - 1.1.11. K クラス 79 kg 以上 83 kg まで

- 1.1.12. Lクラス 83 kg 以上 87 kg まで
- 1.1.13. 無差別クラス 87 kg 以上 99 kg まで

全 13 クラス、4 kg 刻みでクラス変更(ただし、無差別を除く)

- 1.2. ^{タンディング}女子TANDING (試合): 青年部門
 - 1.2.1 Aクラス 39 kg 以上 43 kg まで
 - 1.2.2 Bクラス 43 kg 以上 47 kg まで
 - 1.2.3 Cクラス 47 kg 以上 51 kg まで
 - 1.2.4 Dクラス 51 kg 以上 55 kg まで
 - 1.2.5 Fクラス 55 kg 以上 59 kg まで
 - 1.2.6 Fクラス 59 kg 以上 63 kg まで
 - 1.2.7 Gクラス 63 kg 以上 67 kg まで
 - 1.2.8 Hクラス 67 kg 以上 71 kg まで
 - 1.2.9 Iクラス 71 kg 以上 75 kg まで
 - 1.2.10 Jクラス 75 kg 以上 79 kg まで
 - 1.2.11. 無差別クラス 79 kg 以上 91 kg まで

。

- 2. ^{トゥンガル}Tunggal(ソロ演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 2.1. ^{トゥンガル プウトラ}Tunggal Putra (男子ソロ)
 - 2.2. ^{トゥンガル プウトリ}Tunggal Putri (女子ソロ)
- 3. ^{ガンダ}Ganda(ダブルス演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 3.5 ^{ガンダ プウトラ}Ganda Putra (男子二人組)
 - 3.6 ^{ガンダ プウトリ}Ganda Putri (女子二人組)
- 4. ^{ルグ}Regu(チーム演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 4.5 ^{ルグ プウトラ}Regu Putra (男子チーム)
 - 4.6 ^{ルグ プウトリ}Regu Putri (女子チーム)

全ての^{タンディング}Tanding/^{トゥンガル}Tunggal/^{ガンダ}Ganda/^{ルグ}Regu カテゴリーは、当該^{プシラット}Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)が満たす出場資格要件に従って参加できる。

第 6 条:成人部門競技会のカテゴリーとクラスについて

成人部門競技会は、以下のカテゴリー及びクラスから構成される。

1. ^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリーは以下のクラスから構成される。

1.1 ^{タンディング}男性TANDING (試合)

- 1.1.1. Aクラス 45 kg 以上 50 kg まで
- 1.1.2. Bクラス 50 kg 以上 55 kg まで
- 1.1.3. Cクラス 55 kg 以上 60 kg まで
- 1.1.4. Dクラス 60 kg 以上 65 kg まで
- 1.1.5. Eクラス 65 kg 以上 70 kg まで
- 1.1.6. Fクラス 70 kg 以上 75 kg まで
- 1.1.7. Gクラス 75 kg 以上 80 kg まで
- 1.1.8. Hクラス 80 kg 以上 85 kg まで
- 1.1.9. Iクラス 85 kg 以上 90 kg まで
- 1.1.10. Jクラス 90 kg 以上 95 kg まで
- 1.1.11. 無差別クラス 85 kg 以上

*注:85 キロ以上の選手は体重別で該当するクラスあるいは無差別クラスにエントリーできる。ただし、同一の競技会において、同時に 2 つのクラスにエントリーすることはできない。

1.2. ^{タンディング}女性TANDING (試合) : 成人部門

- 1.2.1. Aクラス 45 kg 以上 50 kg まで
- 1.2.2. Bクラス 50 kg 以上 55 kg まで
- 1.2.3. Cクラス 55 kg 以上 60 kg まで
- 1.2.4. Dクラス 60 kg 以上 65 kg まで
- 1.2.5. Eクラス 65 kg 以上 70 kg まで
- 1.2.6. Fクラス 70 kg 以上 75 kg まで
- 1.2.7. 無差別クラス 65 kg 以上

*注:65 キロ以上の選手は体重別で該当するクラスあるいは無差別クラスにエントリーできる。ただし、同一の競技会において、同時に 2 つのクラスにエントリーすることはできない。

2. ^{トゥンガル}Tunggal(ソロ演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。

2.1. ^{トゥンガル ブットラ}Tunggal Putra (男子ソロ)

2.2. ^{トゥンガル ブウトリ}Tunggal Putri (女子ソロ)

3. ^{ガンダ}Ganda(ダブルス演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。

3.1 ^{ガンダ ブットラ}Ganda Putra (男子二人組)

3.2 ^{ガンダ プウトリ} Ganda Putri (女子二人組)

4. ^{ルグ} Regu(チーム演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。:

4.1 ^{ルグ プウトラ} Regu Putra (男子チーム)

4.2 ^{ルグ プウトリ} Regu Putri (女子チーム)

全ての^{タンディング トゥンガル ガンダ ルグ} Tanding/Tunggal/Ganda/Regu カテゴリーは、当該^{プシラット} Pesilat(ブンチャック・シラットの選手) が満たす出場資格要件に従って参加できる。

第7条: マスター I & II 部門競技会のカテゴリーとクラスについて

マスター I & II 部門競技会は、以下のカテゴリー及びクラスから構成される。

1. ^{タンディング} TANDING (試合)カテゴリーは以下のクラスから構成される。

1.1 ^{タンディング} 男性TANDING (試合)

- 1.1.1. Aクラス 45 kg 以上 50 kg まで
- 1.1.2. Bクラス 50 kg 以上 55 kg まで
- 1.1.3. Cクラス 55 kg 以上 60 kg まで
- 1.1.4. Dクラス 60 kg 以上 65 kg まで
- 1.1.5. Eクラス 65 kg 以上 70 kg まで
- 1.1.6. Fクラス 70 kg 以上 75 kg まで
- 1.1.7. Gクラス 75 kg 以上 80 kg まで
- 1.1.8. Hクラス 80 kg 以上 85 kg まで
- 1.1.9. Iクラス 85 kg 以上 90 kg まで
- 1.1.10. Jクラス 90 kg 以上 95 kg まで
- 1.1.11. 無差別クラス 85 kg 以上

*注: 85 キロ以上の選手は体重別で該当するクラスあるいは無差別クラスにエントリーできる。ただし、同一の競技会において、同時に 2 つのクラスにエントリーすることはできない。

1.2. ^{タンディング} 女性TANDING (試合): 成人部門

- 1.2.1. Aクラス 45 kg 以上 50 kg まで
- 1.2.2. Bクラス 50 kg 以上 55 kg まで
- 1.2.3. Cクラス 55 kg 以上 60 kg まで
- 1.2.4. Dクラス 60 kg 以上 65 kg まで
- 1.2.5. Eクラス 65 kg 以上 70 kg まで
- 1.2.6. Fクラス 70 kg 以上 75 kg まで
- 1.2.7. 無差別クラス 65 kg 以上

*注:65 キロ以上の選手は体重別で該当するクラスあるいは無差別クラスにエントリーできる。ただし、同一の競技会において、同時に 2 つのクラスにエントリーすることはできない。

2. ^{トゥンガル}Tunggal(ソロ演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 2.1. ^{トゥンガル} ^{プトラ}Putra (男子ソロ)
 - 2.2. ^{トゥンガル} ^{プトリ}Putri (女子ソロ)
3. ^{ガンダ}Ganda(ダブルス演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。
 - 3.3. ^{ガンダ} ^{プトラ}Ganda Putra (男子二人組)
 - 3.4. ^{ガンダ} ^{プトリ}Ganda Putri (女子二人組)
4. ^{ルグ}Regu(チーム演武)カテゴリーは以下のクラスから構成される。:
 - 4.3. ^{ルグ} ^{プトラ}Regu Putra (男子チーム)
 - 4.4. ^{ルグ} ^{プトリ}Regu Putri (女子チーム)

全ての^{タンディング}Tanding/^{トゥンガル}Tunggal/^{ガンダ}Ganda/^{ルグ}Regu カテゴリーは、当該^{プシラット}Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)が満たす出場資格要件に従って参加できる。

第 8 条 :アリーナ(試合場)及びその備品について

1. アリーナ

アリーナとは、平らで反発力のない 2.5~5 センチの厚さを持つ PERSILAT 標準マットレスを敷き詰めた床である。マットレスは、10m x 10m であり、基本色は明るい緑色で、必要に応じて引かれる線は白色である。マットレスと必要とされる備品はすべて競技会運営局が用意しなければならない。

1.1. ^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリーには、以下のものが必要となる。

- 1.1.1. アリーナの広さは 10m x 10m の正方形である。場内を示す線は直径 8m の円形である。
(附図 1:アリーナ)
- 1.1.2. 場内・場外の境界線は 5 センチ幅の白線で示され、白線の外枠が境界である。

1.1.3. 場内の中心には直径 3m の円が描かれる。この円の境界線は 5 センチ幅の白線で描かれる。この円は試合開始時において、立会い線となる。

1.1.4. Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)のコーナーは、アリーナの対角線上の角でお互い対面し、かつ、場内によって隔てられる。このコーナーは以下のものから構成される。

- a. 青コーナーは、競技委員長席から見て、右手前に位置する。
- b. 赤コーナーは、青コーナーの対角線上に位置する。
- c. 白コーナーは、中立地帯として、その他の 2 箇所の角に設置される。

1.2. ^{トゥンガル ガンダ ルグ}Tunggal/Ganda/Regu カテゴリーには、以下のものが必要となる。

^{トゥンガル ガンダ ルグ}Tunggal/Ganda/Reguの 3 カテゴリーのための演武場の広さは、10m x 10m の正方形である。

2. アリーナにおける備品:

競技会運営局が用意すべき備品は以下のとおりである。

- 2.1. 採点用机及び椅子
- 2.2. レフェリー・審判用机及び椅子
- 2.3. 採点用紙及び筆記用具.
- 2.4. 時計、ゴング(もしくはそれに類似した道具)、ベル
- 2.5. ラウンドの開始を示すためのランプもしくはそれに類似した信号装置
- 2.6. 必要時に競技経過を示すための赤、青、黄色のライト
- 2.7. 審判用の 30cm x 30 cm の赤及び青の柄のある旗と、計時係用の同規格の黄色の旗
- 2.8. ^{トゥンガル ガンダ ルグ}Tunggal/Ganda/Reguカテゴリーにおいて Pesilat の演武時間を示すためのインフォメーションボード
- 2.9. 武器台、ただし^{トゥンガル}Tunggal(ソロ演武)カテゴリーのみ
- 2.10. スコアボードあるいは電子採点システム表示スクリーン
- 2.11. 体重計
- 2.12. 音響設備
- 2.13. バケツ、モップ、雑巾
- 2.14. 録画記録装置及び記録係(ただし、ここで記録された内容は勝敗の決定に対し有効な証拠とはならない。)
- 2.15. 競技委員長・審判局・事務局・計時係・医療班・採点審判(I ~ V)のためのネームボード。必要であれば、それぞれの肩書きの下に開催地言語の訳を付ける。
- 2.16. その他、状況に応じて必要なもの全て。例えば、選手が審判の声を聞き取れないほどの騒音がある場合、審判用無線マイク
(Picture 2: Some of the arena equipments)

第 2 章: 試合実施規定

第 9 条: ^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリー

1. 競技における備品:

1.1. 服装:

Pesilat(^{プシラット}パンチャック・シラットの選手)は、標準である黒のパンチャック・シラット道着と 10 センチ幅の白帯を着用する。道着の袖は手首までの長さ(+/-1 センチ)、裾は足首までの長さ(+/-1 センチ)であること。

女子選手がヒジャブを着用する場合は、可能な限り黒色で無地のものを着用すること。

白帯は試合の間は外す。

道着の左胸に選手の所属する協会のエンブレムを、また、右胸に PERSILAT のエンブレムを、右腕に国旗を、スポンサーのロゴを左腕に貼付することは許される。スポンサーロゴは PERSILAT のエンブレムより大きくてはならない。(直径 10 センチ以下であること)

国名は背面の上部に表示する。これらは Pesilat 自身が用意する。

Pesilat は、規定のパンチャック・シラット道着以外のものを身に着けてはならない。

(Picture 3: Pesilat costume for Tanding category)

1.2. ボディープロテクター(胴体用防具)は以下の規定を満たす:

1.2.1. PERSILAT 品質

1.2.2. 黒色

1.2.3. サイズは超特大、特大、大、中、小 (XXL, XL, L, M, S) の 5 種類

1.2.4. 強力な内張りがしてある 10 センチ幅の赤と青の帯。これは Pesilat のコーナーを示すものである。

1.2.5. 1 アリーナは少なくとも全てのサイズでそれぞれ 5 セットのボディープロテクターを、競技会運営局によって用意されなければならない。

^{プシラット}Pesilat(パンチャック・シラットの選手)はこの用意されたボディープロテクターを使用することが義務である。

(Picture 4: Trunk protector)

1.3. 男女を問わず、選手はプラスチック製の急所用防具を着用しなければならない。これらは選手自身が用意するものである。

1.4. 関節用防具(手首、足首、ひざ、肩)及び足用防具と腕用防具は、1 枚でかつ 1 センチ以下の薄い素材でできており、固さがあるてはならない。これらは選手自身によって用意されるものである。

1.5. 関節をテーピングすることは許される。

1.6. マウスピースの利用は許される。

2. 競技会の方式と段階

2.1. 競技会はトーナメント方式を採用する。ただし、必要に応じて PERSILAT により他の方式が指定された場合は除く。

2.2. 試合は参加選手数に応じて、予選ラウンド、準々決勝ラウンド、準決勝ラウンド、決勝ラウンドに段階分けされる。この段階付けは全クラスにおいて行われる。

2.3. 各クラスは少なくとも 2 名の Pesilat の参加がなければ成立しない。

3. 試合構成と時間設定

3.1. プレ・ジュニア部門

3.1.1. 試合は 3 ラウンド制で行われる。

3.1.2. 1 ラウンドは 1 分半で行われる。

3.1.3. ラウンドとラウンドの間には 1 分間の休憩がある。

3.1.4. レフェリーによって中断された時間は 1 分半の間に計測されない。

3.1.5. 有効な攻撃によってノックダウンされた Pesilat に対してカウントされている間は、1 分半の間に計測されない。

3.2. ジュニア部門、青年部門及び成人部門

3.2.1. 試合は 3 ラウンド制で行われる。

3.2.2. 1 ラウンドは 2 分間で行われる。

3.2.3. ラウンドとラウンドの間には 1 分間の休憩がある。

3.2.4. レフェリーによって中断された時間は 2 分の間に計測されない。

3.2.5. 有効な攻撃によってノックダウンされた Pesilat に対してカウントされている間は、2 分の間に計測されない。

3.3. マスター I & II 部門

3.3.1. 試合は 3 ラウンド制で行われる。

3.3.2. 1 ラウンドは 1 分半で行われる。

3.3.3. ラウンドとラウンドの間には 1 分間の休憩がある。

3.3.4. レフェリーによって中断された時間は 1 分半の間に計測されない。

3.3.5. 有効な攻撃によってノックダウンされた Pesilat に対してカウントされている間は、1 分半の間に計測されない。

4. コーチ

- 4.1. 各 Pesilat は、特に^{タンディング}TANDING (試合)カテゴリーにおいて、最大 2 名のコーチにアシストされる。コーチは PERSILAT 規定のパンチャック・シラット国際規約を理解していること。
- 4.2. コーチは、標準である黒のパンチャック・シラット道着と 10 センチ幅のオレンジ帯を着用する。道着の袖は手首までの長さ(+/-1 センチ)、裾は足首までの長さ(+/-1 センチ)であること。道着の左胸にコーチの所属する協会のエンブレムを、また、右胸に PERSILAT のエンブレムを貼付し、国名は背中に表示する。
(Picture 5 : The Coach costume)
- 4.3. コーチは、ラウンドとラウンドの間に挟まれる休憩中においてのみ選手に対して指示を出すことが許される。
- 4.4. 2 名のうち 1 名は Pesilat と同性でなければならない。

5. 競技の手順

- 5.1. 競技は、競技委員長の右手からの審判と採点審判のアリーナへの入場によって、開始される。入場した審判と採点審判が競技委員長に対し礼を示し、彼らが審判の職務を果たすことを報告した後、審判は指定された席につく。
(附図 6:タンディング・カテゴリー配置図)
- 5.2. 試合開始に先立ち、審判はそれぞれのコーナーにおいて Pesilat の身体検査を行う。(事務局の呼び出しに続く)審判の合図により、それぞれの Pesilat はコーチに挨拶をしてからアリーナ中央に進み、審判と競技委員長に対し礼をする。その後、Pesilat は自身の流派の型を 5~10 動作披露しなければならない。その後、両 Pesilat はそれぞれのコーナーに戻る。
- 5.3. 試合は審判が両 Pesilat を呼び出すことによって、開始される。両 Pesilat は互いに握手し、ルール上の注意点を指導された後、試合開始に備える。
- 5.4. 審判が手振り(右手)で全関係者の準備が完了していることを確認した後、Pesilat に対し試合開始を宣言する。
- 5.5. 休憩の間、両 Pesilat はそれぞれのコーナーに戻らなければならない。
- 5.6. 審判と試合当事者である 2 名の Pesilat 以外、何びとも審判の許可なしにアリーナに立ち入ってはならない。
- 5.7. 最終ラウンド終了後、両 Pesilat はそれぞれのコーナーに戻るか、審判の求めに応じて中央で勝利者の確定を待つ。勝利者を宣言する際、審判は勝者の手を上げる。その後、両 Pesilat は競技委員長に挨拶をする。

- 5.8 挨拶の後、両 Pesilat は握手を交わし、アリーナを離れる。これに続いて審判と採点審判は集結し、競技委員長に挨拶をし、自分達の職務の完了を報告する。審判と採点審判は競技委員長席の左手から退場する。

6. 試合規則

6.1. 試合のルール

- 6.1.1. Pesilat は、互いにパンチャック・シラットの攻撃と防御の技術を用いて、対峙する。攻撃と防御の技術とは、例えば、反撃する、攻撃を避ける、攻撃を命中させる、相手を床に倒す、パンチャック・シラットの理念と禁止事項に従うことである。

パンチャック・シラットの理念とは、Pesilat は sikap pasang(構え)と pola langkah (足捌き)を組み合わせで一連の動きを作り、相手との間合いを計り、攻撃と防御の技の連携を披露し、最後は sikap pasang(構え)に戻るにより技術点を獲得することである。

- 6.1.2. 攻撃と防御の動きは、sikap pasang(構え)と pola langkah (足捌き)によって区切られる。また、攻撃と防御の動きはよい連携を見せなければならない。

攻撃と防御の動きの後、Pesilat は pola langkah (足捌き)によって sikap pasang(構え)に戻らなければならない。Pesilat がパンチャック・シラットに基づく正しい技術を用いない場合、レフェリーは「LANGKAH」とコマンドすること。

(附図 7: Pola Langkah 例)

- 6.1.3. 攻撃は、相手に対してさまざまな技術の連携によって行われなければならない。また、6 種以上の攻撃を一度に与えてはならない。6 種以上の攻撃を与えられた場合、レフェリーによって中断される。手を用いて行われる連続攻撃が同種の技であった場合、1 つの攻撃と採点される。

- 6.1.4. 採点対象となる攻撃とは、有効な得点エリアに当たった kaidah を用いて行われ、安定し、力強い攻撃である。

6.2. 試合における合図・指示

- 6.2.1. 「BERSEDIA」^{ブルスディヤ}とは、両 Pesilat 及び試合関係者に対し、試合開始を案内する指示である。この用語は試合の間、常に用いられる。

- 6.2.2. 「MULAI」^{ムライ}とは、試合開始及び再開時に使われる指示である。これは信号(ランプ)によっても示される。

6.2.3. 「BERHENTI」「TI」とは、試合を中断させる指示である。

6.2.4. 「PASANG」「LANGKAH」「SILAT」とは、指導のために使われる指示である。

6.2.5. ラウンドの開始及び終了はゴングによって示される。

6.3. 採点対象エリア(Picture-8)

有効な攻撃採点対象エリアは「Togok」と呼ばれ、これは首より上及びヘソから股間までを除く胴体のことである。つまり、

6.3.1. 胸部

6.3.2. 腹部 (ヘソより上)

6.3.3. 左右の脇腹

6.3.4. 背中(ただし、背骨への直接攻撃は除く)

相手を倒そうとする動作の中で膝下(足首より下)に対する攻撃(ひっかける、など)は許されるが、採点対象とはならない。

6.4. 禁止事項

禁止事項は以下の違反事項として示される。

6.4.1. 重度違反事項:

- a. 禁じられている部分(例えば、首、頭、ヘソから股間まで、背中、太もも及び膝より上)への攻撃
- b. 骨折を意図した関節への直接攻撃
- c. 意図的に相手を場外に投げる
- d. 頭への攻撃及び頭による攻撃
- e. レフェリーによる「MULAI」のコマンド前に攻撃すること、あるいは、「BERHENTI」のコマンドの後にも攻撃すること。また、それにより相手に怪我を負わせること。
- f. 掴みかかる、噛み付く、引っかく、握る、相手の髪(あるいはジルバブ)を引っ張る行為
- g. 対戦相手もしくは試合関係者(レフェリー、審判、レフェリー/審判団、競技委員長)ならびに観客への、挑発・侮蔑・暴言・唾棄行為。試合関係者に対する暴力行為
- h. 場内場外に関わらず、対戦相手を故意に投げ飛ばす行為
- i. 攻撃をしながら、相手を掴む・捉える・組み付く行為

6.4.2. 軽度違反事項(指導対象事項):

- a. kaidah (原理)の不使用(構えと足運び)
- b. 1ラウンドに1回以上、意識的・無意識的に関わらず、場外に出ること。(たとえ片足でも出れば場外)
- c. 防御の行為として、相手に組み付くこと。
- d. 1ラウンドに1回以上、時間稼ぎを目的として、下の位置から力のない足払いあるいはカニ挟みの技を繰り出すこと。
- e. 身振りやサイン、言葉によって第三者あるいはコーチととやりとりすること。
- f. 両 Pesilat もしくは一方の Pesilat が 5 秒以上消極的であること。
- g. 試合中に必要以上に声を発すること。
- h. 誤った攻撃の軌道
- i. 故意に対戦相手を場外に押し出すこと。
- j. 故意に対戦相手に背中を見せること。
- k. 時間稼ぎを目的とした各種行為(帯をほどく、髪留めをほどく、審判からカウントをもらう、など)

6.5. 誤った防御技術:

- 6.5.1. 正確な方向付けにより出された有効な攻撃で、相手の誤った防御技術(例:攻撃の来る方向に避ける)により怪我を負わせた場合、違反とはならない。
- 6.5.2. 6.5.1.により怪我をした相手がまだ意識のある場合、レフェリーは医師を呼ぶ。医師が試合続行不可能と判断した場合、当該 Pesilat は TKO 負けとなる。
- 6.5.3. 倒された Pesilat が立ち上がれず、しかしながら医師が試合続行可能と判断した場合、レフェリーは直ちにカウントを開始する。

6.6. 罰則(ペナルティー)

罰則の状況と段階は以下のとおり定める。

6.6.1. 注意(Reprimand / Tegoran^{トゥゴラン})

- a. 同一ラウンドにおいて一度指導を受けた軽度違反事項を再度犯した時に与えられる。
- b. 重度違反事項を犯し相手に怪我を負わせなかった場合には、直ちに「注意」が与えられる。

6.6.2. 警告(Warning / Peringatan^{プリングタン})は全ラウンドを通して有効である。軽度違反事項は当該ラウンドの間のみ有効である。これらは以下のものから成る。

- a. **警告 I** は以下の時に与えられる:
 - a.1. 重度違反事項を犯し、対戦相手に怪我を負わせた時
 - a.2. 軽度違反事項を繰り返し、3 度目の注意を与えられた時。
警告 I が与えられた後であっても、注意は与えられる。
- b. **警告 II** は警告 I を与えられた後に再び重度違反事項を犯した時。
警告を与えられた場合に出される。また、警告 II が与えられた後であっても、同じラウンドンにおいて注意は与えられる。
- c. **警告 III** は警告 II を与えられた後に再び警告を与えられた場合に出される。警告 III が与えられた場合、即失格となる。警告 III は審判によって明確に宣言されなければならない。
- d. **失格(Disqualification)** は以下のときに与えられる:
 - d.1. 警告 II の後、再度警告を与えられた時
 - d.2. 意図的にそしてスポーツマン精神にもとる動機で重度違反事項を犯した時
 - d.3. 警告 I あるいは注意 I を与えられる重度違反事項を犯し、かつ、その行為により相手が試合続行不可能だと医師に判断された時
 - d.4. 試合開始 15 分前に行われる計量において、Pesilat の体重が本人の参加するクラスの体重規定に符合しない時
 - d.5. 禁止されている薬物を利用した場合、もしくは薬物テストで陽性反応が出た時。禁止薬物による失格となった Pesilat は、獲得したメダルや証書など全ての表彰物を大会運営局に返却しなければならない。
 - d.6. 全カテゴリーを通じて最初の試合(第一試合)開始前までに健康診断書を提示できなかった時

6.7. 採点

6.7.1. 採点規則:

技術点:

- スコア 1** 相手に防がれることなく、手を使った攻撃が命中すること
- スコア 1 + 1** 相手の攻撃を防ぎ、直ちに手を使った反撃が命中すること
- スコア 2** 相手に防がれることなく、足を使った攻撃が命中すること
- スコア 1 + 2** 相手の攻撃を防ぎ、直ちに足を使った反撃が命中すること

スコア 3 直接攻撃により相手を床に倒すこと

スコア 1 + 3 相手の足による攻撃を掴み、直ちに相手を床に倒して反撃すること

6.7.2. 技術点の必要条件:

技術点は以下の場合にのみ、与えられる。

- A. 有効な 相手の攻撃をかわすこと(Tangkisan) / 相手の攻撃から逃れること(Elakan) / 相手の攻撃に耐えること(Menahan) に続き、直ちに行われる反撃
- B. 手による有効な攻撃
- C. 足による有効な攻撃
- D. 有効な相手を倒す攻撃(ジャトゥアン) (Jatuhan)

- A. 相手の攻撃をかわすこと(Tangkisan) / 相手の攻撃から逃れること(Elakan) / 相手の攻撃に耐えること(Menahan) とは、これらの防御技術により相手の攻撃を無効とし、直ちに手、足、あるいは相手を掴む形で始まる相手を倒す技による有効な反撃を行うものである。

注:相手の攻撃を防ぐことに与えられる"1+"のスコアは、防御に引き続き直ちに有効な反撃が行われた場合にのみ与えられる。有効な反撃に与えられるスコアは、反撃が行われた技によるものである。つまり、手による反撃はスコア 1、足による反撃はスコア 2、相手を倒す技による反撃はスコア 3 である。(反撃を伴わない防御技術は採点対象とはならない)

- B. 手による有効な攻撃 とは、すべての形の手を使った攻撃が相手に力強く正しく命中するものである。
(突きは 正面、側面、上、下 そして肘を起点とする) — スコア 1
- C. 足による有効な攻撃 とは、すべての形の手を使った攻撃が相手に力強く正しく命中するものである。
(蹴りはは 正面、側面、背面、回転、半回転を起点とする) — スコア 2
- D. 相手を倒す攻撃(ジャトゥアン) (Jatuhan)とは、相手を床に倒し、相手の体の膝から上が床についた場合で、かつ、以下の基準を満たすものである。
— スコア 3
 - D.1. 足払い、持ち上げる、カニ挟みなどの技による直接攻撃で相手を倒した場合。有効な攻撃は攻撃の種類により採点される。
 - D.2. 足による攻撃をしかけてきた相手の足を掴み、押す、あるいは払う動作で相手を倒した場合(この時点で手あるいは足による直接攻

撃を行ってはならない＝相手の足を掴んで直接攻撃をしてはならない)

- D.3. 攻撃をしかけた Pesilat が一緒に倒れていない場合
- D.4. 相手を掴んでから倒すまでは審判が動きを停止させるまでの 5 秒間与えられる。
- D.5. タンキサン Tangkisan(払い)、タンカバン Tangkapan(持ち上げ)、サブアン Sapuan(引っ掛け)、グンティンガン Guntinganの技術は、相手の体を掴むことで行ってはならないが、相手の体を押す、もしくは触ることで行われることは許される。Jatuhan 不成立を宣告する。
- D.6. サブアン Sapuan(引っ掛け)が失敗した時に限り、相手に対する反撃が許される。サブアン Sapuanによる攻撃を仕掛けられた Pesilat は 1 秒の間に 1 つだけ相手に反撃することができる。ただし、反撃には体重をかける技を使ってはならない。有効な反撃に対しては、使われた技によって得点が与えられる。

E. その他の要素

- E.1. 有効性に関わらず、偶発的に両 Pesilat に攻撃が入り、うち 1 名もしくは両名が倒れた場合、Jatuhan は以下の基準で採点される。
 - E.1.1. 両名のうち 1 名が立ち上がれず、明白にカウントが成された場合
 - E.1.2. 両名が立ち上がれず、両名に対し、明白にカウントが成された場合。
 - E.1.3. 両名が 10 カウントまでに立ち上がれず、しかしながら、既にスコアを獲得している場合、スコアが高い Pesilat が勝者となる。
 - E.1.4. この事態が第 1 ラウンドの始めに発生し、両名ともにスコアを獲得していない、あるいは同点の場合、勝者は第 2 章第 9 条第 6 節第 7 項 4a2 の 5,6 に従って決定される。(再試合は行われない)

F. 自分自身で倒れた場合

相手の攻撃によらず自分自身から倒れ、かつ、立ち上がれない場合、10 カウント以内に立ち上がる機会を与えられる。当該選手が試合続行不可能な場合、「TKO(技術的劣勢)」を宣告される。

G. 掴まえる(タンカバン Tangkapan)

- G.1. Tangkapan は Jatuhan へつながる動きであり、以下の時は不成立となる。
 - G.1.1. Jatuhan にうつるまでに 5 秒以上かかっている、動きが停滞している、もしくは相手ともみ合っている時

- G.1.2. 攻撃を仕掛けた Pesilat も、Jatuhan を仕掛けて同時に倒れた時
- G.1.3. 足を掴まえる動きの中で相手が攻撃を仕掛けている Pesilat の肩を掴んでいても、レフェリーの「BERHENTI」のコマンドが入る前、かつ5秒以内に相手を倒すことができれば、この Jatuhan は有効である。
- G.1.4. 足をつかまれた相手が攻撃(Jatuhan)を仕掛けている Pesilat の首や頭あるいは体に手をかけ、このために両 Pesilat が倒れこんでしまった場合、掴んでいた Pesilat は「Tegoran(注意)」を宣告される。

H. 倒れる(Jatuhan)^{ジャトゥアン}

- H.1. Jatuhan により相手を倒し、その相手の体の一部が試合場の境界線の内側(場内)にある場合、この Jatuhan は有効である。
- H.2. Jatuhan が場内で行われた後、倒れた Pesilat が場外に出た場合、この Jatuhan は有効である。
- H.3. 有効な攻撃により相手が倒れ、そして、立ち上がることができず、また、それが場内で発生したものの、倒れた相手が場外に逃れた場合、この Jatuhan は有効である。倒れた Pesilat は試合続行まで 10 秒の猶予が与えられる。(レフェリーは当該 Pesilat に対しカウントを行う) 試合続行が不可能な場合、倒れた Pesilat には「KO(完全敗北)」が宣告される。
- H.4. 有効な攻撃が場内で行われ、相手が場外に倒れ、かつ立ち上がれない場合、レフェリーはカウントを行い、10 まで数える。倒れた Pesilat が試合続行不可能な場合、当該 Pesilat は「TKO(技術的劣勢)」を宣告される。
- H.5. 相手が Tangkapan に対応し(堪え、掴み、掴まれた足の引き戻し)、あるいは有効な反撃(突き、カニ挟みなど)を行い、結果として逆に Jatuhan に移行した場合、この Jatuhan は有効である。

6.7.3. 罰則(ペナルティー)スコア

罰則(ペナルティー)スコアは以下のとおり規定される。

- a. スコア -1 (マイナス 1) 注意 I で与えられる。
- b. スコア -2 (マイナス 2) 注意 II で与えられる。
- c. スコア -5 (マイナス 5) 警告 I で与えられる。
- d. スコア -10 (マイナス 10) 警告 II で与えられる。

6.7.4. 勝利の確定

- a. スコアによる勝利 (Menang Angka)

- a.1. 採点審判による勝利判定を、相手より多く獲得した Pesilat が勝者となる。勝利の判定はそれぞれの採点審判によって行われる。
- a.2. スコアが同点の場合、勝者の確定は以下の順によって行われる。
 - i. よりペナルティーの少ないこと
 - ii. より多くの高レベルの技術点を獲得していること。技術点は高い順に 1+3,3,1+2,2,1+1,1 である。
 - iii. 1 ラウンドからなる延長戦の実施
 - iv. 体重がより軽いこと(試合開始 15 分前に行われた計量の結果に従う)
 - v. 競技委員長が、技術委員と両チームのマネージャーの立会いのもと、マットレスにコインを落とすコイントスで勝者を確定する。
- a.3. 採点審判の採点結果は、最終ラウンドもしくは勝利が確定した後、スコアボードに公表される。ただし、電子採点表示システムを採用している場合は除く。(電子採点表示システムを採用している場合は既に結果が表示されているため)
- b. TKO (Technical Knock Out (技術的優越) による勝利 (Menang Teknik)
 - b.1. 相手が試合続行不可能と自ら申し出た場合
 - b.2. 相手が医師によって試合続行不可能と判断された場合
医師は当該 Pesilat を診察し、試合続行可能 (Fit) もしくは試合続行不可能 (Tidak Fit/Unfit) の判断を下すのに最大 120 秒間を与えられる。
 - b.3. 対戦チームのコーチの判断による場合
 - b.4. 審判の判断による場合 (10 までカウントした後)
- c. KO (Absolute Victory (完全勝利) による勝利 (Menang Mutlak)
相手が有効な攻撃により倒れ、試合続行が不可能、もしくは審判の 10 カウントの後、sikap pasang (構え) で立ち上がれない場合
- d. RSC (Referee Stop Contest) (レフェリーによる試合中止) による勝利 (Wasit Menghenti Pertandingan)
試合経過が明らかである場合
- d. WO (Walk Over) (途中退場) による勝利 (Undur Diri)
名前が 30 秒おきに 3 回呼び出されても、対戦相手が試合場に姿を見せなかった場合。ただし、チームマネージャーにより当該 Pesilat の棄権が申し出られている場合を除く。

f. 相手の失格による勝利(Diskualifikasi)

- f.1. 相手が警告Ⅱのあと、さらに三回目の警告を受けた場合
- f.2. 相手が重度違反事項を犯し、即時失格処分となった場合
- f.3. 試合続行不可能と医師に判断されるような怪我を違反事項により相手に負わされた場合
試合続行不可能と判断され、相手の失格により勝利した Pesilat は、試合開始以前に医師の許可を得られれば、以降の試合に参加することができる。
- f.4. 計量において、相手の体重が体重規定に符合していない場合
- f.5. 相手が試合開始前までに健康診断書を提示できなかった場合

第 10 条：^{トゥンガル}TUNGGAL (ソロ演武) カテゴリー

1. 競技における備品:

1.1. 服装:

^{プシラット}Pesilat(ブンチャック・シラットの選手)は、PERSILAT 標準である無地のブンチャック・シラット道着(色は問わない)を着用する。上下の色は違ってよい。無地もしくは装飾のある ikat kepala(ヘッドバンド)と kain samping(腰布)を着用する。女子選手のヒジャーブなどはヘッドバンドとは判定されない。また、(ニカーブなどで)顔を隠してはならない。色の選定及び組み合わせは完全に Pesilat の裁量による。道着の左胸に選手の所属する協会のエンブレムを、また、右胸に PERSILAT のエンブレムを、左腕に国旗を貼付することは許される。国名は背中に表示する。
(Picture 10: Pesilat Costume of Tunggal Category)

1.2. 武器

1.2.1. プレ・ジュニア部門及びジュニア部門においては、^{ゴロツ}Golok(剣) もしくは ^{バラ}parang :は長さ 20-30 センチ、金属製あるいは木製であり、鋭利でないこと。幅は 2 - 3.5 センチであること。

^{トンカッ}Tongkat (棒)はラタン(藤)製の直径 1.5-2.5 センチ、長さ 100-150 センチのものであること。

1.2.2 青年部門・成人部門及びマスター部門においては、^{ゴロツ}Golok(剣) もしくは ^{バラ}parang :は長さ 30-40 センチ、金属製であり、鋭利でないこと。幅は 2.5 -4 センチであること。

^{トンカッ}Tongkat (棒)はラタン(藤)製の直径 2.5-3.5 センチ、長さ 150-180 センチのものであること。

2. 演武の段階

- 2.1. 7名以上の選手が参加する場合、プール制が準備される。
- 2.2. 各プール上位3名の Pesilat が、次が決勝ラウンドでない限り、次のラウンドに進む。決勝ラウンドの参加者は、それまで行われたすべてのプールの中からスコアが最も高い上位3名の Pesilat である。
- 2.3. プールの数は、技術委員、競技委員長、審判長の参加する会合によって決定される。決定は参加選手に対し、テクニカル・ミーティングにおいて公表される。
- 2.4. テクニカル・ミーティングにおいて、くじ引きで選手の振り分けは決定される。抽選の方式は手動式あるいは電子式で行われ、どちらの方式を採用するかはテクニカル・ミーティングにおいて投票で決定される。
- 2.5. Tunggal カテゴリーは少なくとも2名の Pesilat が参加していなければ成立せず、また、この場合の競技は決勝ラウンドとなる。

3. 演武時間

演武時間は3分である。

4. 演武の手順

- 4.1. 演武部門は以下の手順で開始される。
 - a. 競技委員長の右手からの採点審判のアリーナへの入場
 - b. 競技委員長に対し、採点審判による挨拶と彼らが審判の職務を果たすことを報告
 - c. 採点審判が指定された席につく。
(附図 12: TGR用アリーナ)
- 4.2. 事前に競技委員長の検査を受けた演武で使用する武器は、競技会運営事務局によって用意された武器台に準備される。

Pesilat/コーチは当該 Pesilat の演武の前に各々の武器を武器台から引き取ることができる。(当該 Pesilat の名前が呼ばれた後)
- 4.3. 演武する Pesilat は、
 - a. 競技委員長の左手から入場する。
 - b. 礼に適った作法で歩いてアリーナの中央に入る。
 - c. Pesilat 自身で武器を武器台に置く。(コーチが行うことは許されない)
 - d. 競技委員長に挨拶し、採点審判に挨拶する。

- 4.4. 競技委員長は採点審判、計時係他全関係者に合図し、彼らが任務を果たす準備を促す。
- 4.5. 演武の流れ
 - a. 挨拶の構え
 - b. 開始の合図であるゴングの音が鳴らされる。Pesilat は演武を開始する。
 - c. 素手の演武
 - d. golok(剣)使った演武
 - e. Tongkat(棒)を使った演武
 - f. 演武の終了時間の合図としてゴングの音が鳴らされる。
- 4.6. 演武終了後
 - a. Pesilat はアリーナの中央から審判及び競技委員長に挨拶をする。
 - b. 競技委員長の左手から退場する。
 - c. 礼に適った作法で歩く。
- 4.7. 演武時間の記録
 - a. 競技委員長が演武の所要時間を計測する。
 - b. 計時係は演武のための 3 分間を計測する。
 - c. 競技委員長が演武の所要時間を公表する。(電子採点表システムが採用されることが望ましく、所要時間はスクリーンに表示される)

5. 演武規則

5.1. 演武のルール

- 5.1.1. 3 分間、Pesilat は **Jurus Baku Tunggal** (ソロ演武規定型)を素手とそれに続く Golok/Parang と Tongkat を使って演武する。
プレ・ジュニア部門・ジュニア部門およびマスター部門においては±10 秒以内の誤差が、青年部門と成人部門においては±5 秒以内の誤差は認められる
これを越えた場合、ペナルティー(減点)が課せられる。
- 5.1.2. **Jurus Baku Tunggal** (ソロ演武規定型) は正確に演武されなければならない。これには、動きの順番、素手及び武器を使った JURUS の技術、リズム、成熟度、芸術性を含む。
- 5.1.3. Pesilat が自身の原因により演武を続けられない場合、演武は競技委員長により中断され、当該 Pesilat は失格となる。
- 5.1.4. 演武中に音を発することは認められる。

5.2. 罰則(ペナルティー)

5.2.1. ペナルティーによる減点は以下のとおり。

a. 動作と Jurus 細部における失敗

a.1. 1ポイントの減点

i. 技の順番の誤り

ii. 技の誤り

iii. 行われなかった全ての技(技を演武しない)

iv. Pesilat の手が武器から誤って離れ、武器がマットレスに落下しなかった場合、すべての誤った動作と規定外に追加された動作に対し、1ポイントの減点となる。

b. 時間要因

b.1. 演武時間が3分間に対し以下であった場合の減点

b.1.1. プレ・ジュニア部門・ジュニア部門及びマスター部門においては、10-15 秒足りない・多い場合、10ポイントの減点となる。

青年部門及び成人部門においては、5-10 秒足りない・多い場合、10ポイントの減点となる。

演武時間が上記減点対象以上に足りない・多い場合、当該 Pesilat の演武は中断され、失格となる。

c. その他の要因

c.1. アリーナの境界線(10m x 10m)を越える - 5ポイントの減点となる。

c.2. 武器を落とす - 5ポイントの減点となる。

c.3. 相応しい服装を着用しない - 5ポイントの減点となる。(例: 規定外の備品の着用、ヘッドバンドや腰布が演武中に外れる)

c.4. 演武中に剣が折れた、刃が柄から外れた、棒が折れた、棒が割れた、などの武器が破損した場合、失格となる。演武は直ちに停止される。

5.3. その他(ペナルティー)

5.3.1. 審判長は、減点を認可・否認する権利をもつ。5名のうち3名の審判が認定している場合、当該減点は有効であり、2名の審判のみが認定している場合、当該減点は無効となる。

5.3.2. 以下に挙げる場合、競技会が中断される

- i. 採点審判が職務不能に陥った場合(病気、負傷、意識不明)
- ii. 技術的ではない障害が発生した場合(停電、騒乱)
- iii. 外的要因(その他天災)

競技委員長は以下に定める場合に競技会を中断する。

- a.1. 最終演武者ではない Pesilat の演武中に競技会が中断された場合、当該 Pesilat が参加していたカテゴリ及びプールの最終演武者が演武を終了した後、中断前の審判と同じ審判の採点により、当該 Pesilat の演武は最初からやり直される。
- a.2. 最終演武者である Pesilat の演武中に競技会が中断された場合、技術的ではない障害が解消されてから少なくとも 10 分以内に、中断前の審判と同じ審判の採点により、当該 Pesilat の演武は最初からやり直される。
- a.3. 職務を果たせない審判は他の審判と交代させることができる。

5.3.3. Pesilat により審判が職務不能になり(Pesilat と衝突、武器の放擲など)競技会が続行できなくなった場合、当該 Pesilat は失格となる。また、競技委員長は技術委員と協議の上、審判を交代し、失格となった Pesilat の次に演武する順番である選手から競技会を再開続行する。

5.4. 辞退 (Undur Diri)

競技会事務局が行う 3 回の呼び出しの後、試合場に姿を見せなかった場合、辞退とされる。

呼び出しは 30 秒おきに行われる。

5.5. 失格

- a. 演武されなかった Jurus があつた、あるいは Jurus の順番が誤っていた場合、採点は無効となり、失格となる。
- b. Pesilat が競技会規約からの完全な逸脱が認められる服装を着用、もしくは武器を使用した場合、失格となる。(Tシャツを着用、槍を使用、など)
- c. Pesilat が自身の原因により演武を続けられない場合、失格となる。

- d. 第 10 条 5 項 1 節 3、同条同項 2 節 1(b1.1)、同条同項同節 c4、および同条同項 3 節 3 に定める事項によった場合、失格となる。
- e. 試合開始前までに健康診断書を提示できなかった場合、失格となる。

6. 採点

6.1. 採点は以下から成る:

6.1.1. **技術点** は以下の要素を含む

- a. 各 Jurus の正確な動き
- b. 動作の順番の正確さ
- c. Jurus の順番の正確さ

スコアは Jurus Tunggal Baku(100 動作)の動作数の合計から減点を差し引いて獲得される。

6.1.2. **芸術点** は以下の要素を含む

- a. 動きの成熟度
- b. 動きのリズム
- c. 動きの芸術性
- d. 力強さと体力

芸術点は 50～60 ポイントの間で、上記 4 つの要素を基に採点される。

7. 勝者の決定と公表

7.1. 競技者の中で 5 名の採点審判による合計スコアが最も高い選手が、勝者となる。ただし、採点結果のうち、最低点と最高点は合計スコアに含まれない。

7.2. 同点の場合、以下に定めるとおりに勝者を決定する。

- i. 3 名の採点審判による合計スコアの技術点が最も高いこと。合計スコアは第 10 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- ii. 3 名の採点審判による合計スコアの芸術点(動きの確実さ、芸術性、体力)が最も高いこと。合計スコアは第 10 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- iii. 演武時間が 3 分により近いこと
- iv. 罰則規定における減点が最も少ないこと
- v. 技術委員と関係チームのマネージャーおよび審判長の立会いのもとで競技委員長が行うマットレスにコインを落とすコイントス

- 7.3. 選手のスコアは、審判が全ての^{トゥンガル}TUNGGAL (ソロ演武) カテゴリーの選手に対し、採点が終了した後に公表される。審判の採点は、競技委員長による結果発表と同時にスコアボードへ公表される。ただし、電子採点表示システムを採用している場合は除く。(電子採点表示システムを採用している場合は既に結果が表示されているため)

第 11 条:^{ガンダ}GANDA (ダブルス演武) カテゴリー

1. 競技における備品:

1.1. 服装:

^{プシラット}Pesilat(パンチャック・シラットの選手)は、標準である無地のパンチャック・シラット道着(色は問わない)を着用する。上下の色は違ってよい。無地もしくは装飾のある ikat kepala(ヘッドバンド)と kain samping(腰布)を着用する。女子選手のヒジャーブなどはヘッドバンドとは判定されない。また、(ニカーブなどで)顔を隠してはならない。色の選定及び組み合わせは完全に Pesilat の裁量による。道着の左胸に選手の所属する協会のエンブレムを、また、右胸に PERSILAT のエンブレムを、左腕に国旗を貼付することは許される。国名は背中に表示する。

(Picture 13: ~~The Pesilat costume for Ganda/Double category~~)

1.2. 武器

- 1.2.1. 武器の種類及びサイズと数については以下のとおり。

必須武器:^{ゴロツ}Golok(剣) /^{パラ}parang と^{トンカッ}Tongkat (棒)

選択武器:クリス、短剣、トリスラ、チュロリッからひとつ

武器の使用順は競技者の自由である。

- 1.2.1. a プレ・ジュニア部門及びジュニア部門においては、^{ゴロツ}Golok(剣) もしくは^{パラ}parang は長さ 20-30 センチ、金属製あるいは木製であり、鋭利でないこと。幅は 2 - 3.5 センチであること。

^{トンカッ}Tongkat (棒)はラタン(藤)製の直径 1.5-2.5 センチ、長さ 100-150 センチのものであること。

- 1.2.1. b 青年部門・成人部門及びマスター部門においては、^{ゴロツ}Golok(剣) もしくは^{パラ}parang は長さ 30-40 センチ、金属製であり、鋭利でないこと。幅は 2.5 -4 センチであること。

^{トンカッ}Tongkat (棒)はラタン(藤)製の直径 2.5-3.5 センチ、長さ 150-180 センチのものであること。

- 1.2.2. プレ・ジュニア部門及びジュニア部門における選択武器について
 - a. 短剣は長さ 10-15 センチ、金属製あるいは木製であり、鋭利でないこと。
 - b. クリス、トリスラ、チュロリッは長さ 20-30 センチ、金属製あるいは木製であり、鋭利でないこと。
- 1.2.3. 青年部門・成人部門及びマスター部門における選択武器について
 - a. 短剣は長さ 15-20 センチ、金属製であり、鋭利でないこと。
 - b. クリス、トリスラ、チュロリッは長さ 30-40 センチ、金属製であり、鋭利でないこと。
- 1.2.4. 武器を単独あるいは同種での対(組)として使用するかの選択は許される。(対のクリス、対の短剣、対のトリスラ、対のチュロリッ) 武器を扱う技術と武器の種類を選択は、それぞれの競技者の自由である。
- 1.2.4. 演武は下記に定めるとおりに開始する。
 - a. 素手の Jurus で始めること

この先は自由に続けられる。
 - b. 2名のうち1名が武器を使用し残り1名が素手であること、あるいは、2名ともが武器を使用すること。
 - c. 演武の中で武器が Pesilat の間で移動すること。(インドネシア語原文:演武の中で武器を変更すること、あるいは武器を持つ手を変えること。)
 - b. 演武の組み立てに従って、武器を落としたり手放すこと。

2. 演武の段階

- 2.1. 7名以上の選手が参加する場合、プール制が準備される。
- 2.2. 各プール上位3名の Pesilat が、次が決勝ラウンドでない限り、次のラウンドに進む。決勝ラウンドの参加者は、それまで行われたすべてのプールの中からスコアが最も高い上位3名の Pesilat である。
- 2.3. プールの数は、技術委員、競技委員長、審判長の参加する会合によって決定される。決定は参加選手に対し、テクニカル・ミーティングにおいて公表される。
- 2.4. テクニカル・ミーティングにおいて、くじ引きで選手の振り分けは決定される。抽選の方式は手動式あるいは電子式で行われ、どちらの方式を採用するかはテクニカル・ミーティングにおいて投票で決定される。
- 2.5. Tunggal カテゴリーは少なくとも2名の Pesilat が参加していなければ成立せず、また、この場合の競技は決勝ラウンドとなる。

3. 演武時間

演武時間は 3 分である。

4. 演武の手順

4.1. 演武部門は以下の手順で開始される。

- a. 競技委員長の右手からの採点審判のアリーナへの入場
- b. 競技委員長に対し、採点審判による挨拶と彼らが審判の職務を果たすことを報告
- c. 採点審判が指定された席につく。
(附図 12:TGR用アリーナ)

4.2. 事前に競技委員長の検査を受けた演武で使用する武器は、競技会運営事務局によって用意された武器台に準備される。

Pesilat/コーチは当該 Pesilat の演武の前に各々の武器を武器台から引き取ることができる。(当該 Pesilat の名前が呼ばれた後)

4.3. 演武する Pesilat は、

- a. 競技委員長の左手から入場する。
- b. 礼に適った作法で歩いてアリーナの中央に入る。
- c. Pesilat 自身で武器を武器台に置く。(コーチが行うことは許されない)
- d. 競技委員長に挨拶し、採点審判に挨拶する。

4.4. 競技委員長は採点審判、計時係他全関係者に合図し、彼らが任務を果たす準備を促す。

4.5. 演武の流れ

- a. 挨拶の構え
- b. 開始の合図であるゴングの音が鳴らされる。Pesilat は演武を開始する。
- c. 素手の演武
- d. golok(剣)使った演武
- e. Tongkat(棒)を使った演武
- f. 演武の終了時間の合図としてゴングの音が鳴らされる。

4.6. 演武終了後

- a. Pesilat はアリーナの中央から審判及び競技委員長に挨拶をする。
- b. 競技委員長の左手から退場する。
- c. 礼に適った作法で歩く。

4.7. 演武時間の記録

- a. 競技委員長が演武の所要時間を計測する。
- b. 計時係は演武のための 3 分間を計測する。

c. 競技委員長が演武の所要時間を公表する。(電子採点表システムが採用されることが望ましく、所要時間はスクリーンに表示される)

5. 演武規則

5.1. 演武のルール

5.1.1. 3 分間、Pesilat は、素手及び武器を持った状態での、パンチャック・シラットの攻撃と防御の技術の豊かさを披露する。
プレ・ジュニア部門・ジュニア部門およびマスター部門においては±10 秒以内の誤差が、青年部門と成人部門においては±5 秒以内の誤差は認められる。
これを越えた場合、ペナルティー(減点)が課せられる。

5.1.2. 演武中に音を発することは認められる。

5.2. 罰則(ペナルティー)

5.2.1. 選手自身の失敗に対するペナルティー(減点)は以下のとおり。

a. 時間要因

a.1. プレ・ジュニア部門・ジュニア部門及びマスター部門においては、10-15 秒足りない・多い場合、10 ポイントの減点となる。
青年部門及び成人部門においては、5-10 秒足りない・多い場合、10 ポイントの減点となる。

演武時間が上記減点対象以上に足りない・多い場合、当該 Pesilat の演武は中断され、失格となる。

b. その他の要因

以下に定める行為を行う度に 5 ポイントの減点となる。

- i. アリーナの境界線(10m x 10m)を越える
- ii. 事前に提出した演武予定に反して武器を落とす
- iii. 事前に提出した演武予定に従って武器を落とさなかった
- iv. 事前に提出した演武予定に従って武器を落としたものの、武器を拾うために Pesilat が試合場外に出る(引き続き当該武器を利用するため)
- v. 演武中に武器が破損する(折れる、割れる、柄から外れる)

ただし、ヘアバンドと kain samping(腰布)が外れた場合は、減点対象とはならない。

5.2.2. 辞退 (Undur Diri)

競技会事務局が行う3回の呼び出しの後、試合場に姿を見せなかった場合、辞退とされる。
呼び出しは30秒おきに行われる。

5.2.3. 失格

- a. Pesilat が競技会規約からの完全な逸脱が認められる服装を着用、もしくは武器を使用した場合、失格となる。(T シャツを着用、槍を使用、など)
- b. 第11条5項2節1(a)に定める事項によった場合、失格となる。
- c. 試合開始前までに健康診断書を提示できなかった場合、失格となる。

6. 採点(スコア)

6.1. 採点(スコア)は以下から成る:

6.1.1. 攻撃と防御の技術点

素手及び武器を使った攻撃と防御の技術点は、様々な種類の素手または武器を使った攻撃及び防御の技、例えば、突き(Pukulan)、蹴り(Tendangan)、払い(Sapuan)、Jatuhan、Tangkisan、Tangkapan(回避する掴み)、関節技(Kuncian)、などからなる。

採点は以下の要素に焦点をおく。

- a. 素手及び武器による攻撃と防御の技術の熟練度
- b. 素手及び武器による攻撃と防御の技術の豊富さ
- c. 攻撃と防御の技術の技能と創造性
- d. 攻撃と防御の技術の論理性

技術点は60~80ポイントの間で、上記4つの要素を基に採点される。

6.1.2. 芸術点

芸術点は両 Pesilat の演武における成熟度さ、調和性、勇気を採点する。

採点は以下の要素に焦点をおく。

- a. 動きの習熟度と正確さ
- b. 両 Pesilat の調和
- c. 武器を使った動きにおける勇敢さ
- d. 力強さと体力

芸術点は 50～60 ポイントの間で、上記 4 つの要素を基に採点される。

- 6.1.3. 表現点は以下の要素を採点する。
- a. 表現力と動きの調和
 - b. 動きのリズムの調和

表現点は 50～60 ポイントの間で、上記 2 つの要素を基に採点される。

7. 勝者の決定と公表

7.1. 競技者の中で 5 名の採点審判による合計スコアが最も高い選手が、勝者となる。ただし、採点結果のうち、最低点と最高点は合計スコアに含まれない。

7.2. 同点の場合、以下に定めるとおりに勝者を決定する。

- i. 3 名の採点審判による合計スコアの技術点が最も高いこと。合計スコアは第 11 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- ii. 3 名の採点審判による合計スコアの芸術点(動きの習熟度、芸術性、体力)が最も高いこと。合計スコアは第 11 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- iii. 3 名の採点審判による合計スコアの表現点が最も高いこと。合計スコアは第 11 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- iii. 演武時間が 3 分により近いこと
- iv. 罰則規定における減点が最も少ないこと
- v. 技術委員と関係チームのマネージャーおよび審判長の立会いのもとで競技委員長が行うマットレスにコインを落とすコイントス

7.3. 選手のスコアは、審判が全ての GANDA (ダブルス演武) カテゴリーの選手に対し、採点が終了した後に公表される。審判の採点は、競技委員長による結果発表と同時にスコアボードへ公表される。ただし、電子採点表示システムを採用している場合は除く。(電子採点表示システムを採用している場合は既に結果が表示されているため)

第 12 条: REGU (チーム演武) カテゴリー

1. 競技における備品:

1.1. 服装:

- 1.1.1. Pesilat(フシラット・シラットの選手)は、標準である黒のフシラット・シラット道着と 10 センチ幅の白帯を着用する。白帯は結んではならず、また、ゆるくてもいけない。付属品も認められない。

道着の左胸に選手の所属する協会のエンブレムを、右胸に PERSILAT のエンブレムを貼付しなければならない。また、左腕に国旗を貼付することは許される。国名は背中に表示する。

2. 演武会場

- 2.1. 7名以上の選手が参加する場合、プール制が準備される。
- 2.2. 各プール上位 3 名の Pesilat が、次が決勝ラウンドでない限り、次のラウンドに進む。決勝ラウンドの参加者は、それまで行われたすべてのプールの中からスコアが最も高い上位 3 名の Pesilat である。
- 2.3. プールの数は、技術委員、競技委員長、審判長の参加する会合によって決定される。決定は参加選手に対し、テクニカル・ミーティングにおいて公表される。
- 2.4. テクニカル・ミーティングにおいて、くじ引きで選手の振り分けは決定される。抽選の方式は手動式あるいは電子式で行われ、どちらの方式を採用するかはテクニカル・ミーティングにおいて投票で決定される。
- 2.5. Regu カテゴリーは少なくとも 2 名の Pesilat が参加していなければ成立せず、また、この場合の競技は決勝ラウンドとなる。

3. 演武時間

演武時間は 3 分である。

4. 演武の手順

- 4.1. 演武部門は以下の手順で開始される。
 - a. 競技委員長の右手からの採点審判のアリーナへの入場
 - b. 競技委員長に対し、採点審判による挨拶と彼らが審判の職務を果たすことを報告
 - c. 採点審判が指定された席につく。
- 4.2. 演武する Pesilat は、
 - a. 競技委員長の左手から入場する。
 - b. 礼に適った作法で歩いてアリーナの中央に入る。
 - c. 競技委員長に挨拶し、採点審判に挨拶する。
- 4.3. 競技委員長は採点審判、計時係他全関係者に合図し、彼らが任務を果たす準備を促す。

- 4.4. 演武の流れ
 - a. 挨拶の構え
 - b. 開始の合図であるゴングの音が鳴らされる。
 - c. Pesilat は演武を開始する。
 - d. 演武の終了時間の合図としてゴングの音が鳴らされる。
- 4.5. 演武終了後
 - a. Pesilat はアリーナの中央から審判及び競技委員長に挨拶をする。
 - b. 競技委員長の左手から退場する。
- 4.6. 演武時間の記録
 - a. 競技委員長が演武の所要時間を計測する。
 - b. 計時係は演武のための 3 分間を計測する。
 - c. 競技委員長が演武の所要時間を公表する。(電子採点表システムが採用されることが望ましく、所要時間はスクリーンに表示される)

5. 演武規則

5.1. 演武のルール

- 5.1.1. 3 分間、Pesilat は **Jurus Regu Baku** (チーム演武規定型)を演武する。
プレ・ジュニア部門・ジュニア部門およびマスター部門においては±10 秒以内の誤差が、青年部門と成人部門においては±5 秒以内の誤差は認められる。
これを越えた場合、ペナルティー(減点)が課せられる。
- 5.1.2. **Jurus Baku Regu** (チーム演武規定型) は正確に演武されなければならない。これには、動きの順番、技術の正確さ、動きの調和、リズム、芸術性を含む。
- 5.1.3. 演武中に音を発することは認められる。

5.2. 罰則(ペナルティー)

- 5.2.1. 選手自身の失敗に対するペナルティー(減点) は以下のとおり。
 - a. 動作と Jurus 細部における失敗
 - a.1. 1ポイントの減点が、以下のような誤った動作に対して課される。
 - a.1.1. 技の正確さ
 - a.1.2. 技の順番

- a.2. 行われなかった全ての技(技を演武しない)
- a.3. チームの動きに調和が見られない
- b. 時間要因
 - b.1. 演武時間が3分間に対し以下であった場合の減点
 - b.1.1. プレ・ジュニア部門・ジュニア部門及びマスター部門においては、10-15秒足りない・多い場合、10ポイントの減点となる。
青年部門及び成人部門においては、5-10秒足りない・多い場合、10ポイントの減点となる。

演武時間が上記減点対象以上に足りない・多い場合、当該Pesilatの演武は中断され、失格となる。
- c. その他の要因
 - c.1. アリーナの境界線(10m x 10m)を越えたとき1動作につき5ポイントの減点となる。たとえ一人の足が出た場合でも減点対象。
 - c.2. Pesilatが相応しくない服装もしくは完全ではない服装(例えば、帯が落ちる)で演武した場合、5ポイントの減点となる。

5.2.2. 辞退 (Undur Diri)

競技会事務局が行う3回の呼び出しの後、試合場に姿を見せなかった場合、辞退とされる。
呼び出しは30秒おきに行われる。

5.2.3. 失格

- a. 演武されなかった JURUS があつた、あるいは Jurus の順番が誤っていた場合
- b. Pesilat が競技会規約に反した、誤った服装を着用した場合(道着の色が黒以外である、帯の色が白以外である、など)
- c. 第12条5項2節1(b.1.1.)に定める場合
- d. 試合開始前までに健康診断書を提示できなかった場合、失格となる。

6. 採点

6.1. 採点は以下から成る:

6.1.1. **技術点** は以下の要素を含む

- a. 各 Jurus の正確な動き
- b. 動作の順番の正確さ
- c. Jurus の順番の正確さ

スコアは Jurus Wajib Regu (100 動作)の動作数の合計から減点を差し引いて獲得される。

6.1.2. **芸術点** は以下の要素を含む:

- a. 動きの調和性、確実さ
- b. リズムの調和
- c. 動きの同一性
- d. 力強さと体力

芸術点は 50~60 ポイントの間で、上記 4 つの要素を基に採点される。

7. 勝者の決定と公表

7.1. 競技者の中で 5 名の採点審判による合計スコアが最も高いチームが、勝者となる。ただし、採点結果のうち、最低点と最高点は合計スコアに含まれない。

7.2. 同点の場合、以下に定めるとおりに勝者を決定する。

- i. 3 名の採点審判による合計スコアの技術点が最も高いこと。合計スコアは第 12 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- ii. 3 名の採点審判による合計スコアの芸術点(動きの確実さ、芸術性、体力)が最も高いこと。合計スコアは第 12 条 7 項 1 節に定めるとおり。
- iii. 演武時間が 3 分により近いこと
- iv. 罰則規定における減点が最も少ないこと
- v. 技術委員と関係チームのマネージャーおよび審判長の立会いのもとで競技委員長が行うマットレスにコインを落とすコイントス

7.3. 選手のスコアは、審判が全ての^{ルグ}REGU (チーム演武) カテゴリーの選手に対し、採点が終了した後に公表される。審判の採点は、競技委員長による結果発表と同時にスコアボードへ公表される。ただし、電子採点表示システムを採用している場合は除く。(電子採点表示システムを採用している場合は既に結果が表示されているため)

第 13 条: 判定不服の場合

全競技カテゴリーにおいて、判定不服の手続きは以下のとおり規定される。

1. 関連する試合/演武のチームマネージャーは、競技会事務局が用意する所定の用紙に記入し、判定不服を申し立てる。全ての部門における不服申し立て用紙の申請は、競技委員長による勝利判定から 10 分以内に行われなければならない。続く 20 分以内に用紙は競技会事務局に提出されなければならない。
2. 用紙には、明白に抗議理由が記載されなければならない。最初の段階において、申し立ては競技委員長と審判長の協同により解決される。結論は、申し立てが行われてから 2 時間以内にチームマネージャーに伝達される。
3. 上記段階における結論が不服の場合、チームマネージャーは控訴できる。控訴は最初の結論が伝達されてから 20 分以内に行われなければならない。
4. 控訴の審査は、国際技術委員を議長とし、競技委員長、審判団をメンバーとして行われる。彼らは、事例を精査し、控訴が受け付けられてから 3 時間以内に結論を出す。この結論は最終のものである。
5. 正当な理由とペンチャック・シラットの倫理に基づく抗議のみ、精査の対象となる。
6. PERSILAT が他に規定しない限りにおいて、抗議は US\$200 を要する。この手数料は競技会事務局を通じて競技委員長に支払われ、運営側(国際技術委員、協議院長、審判団、審判員)の必要とするところに使用される。

第 14 条:テクニカル・ミーティング

1. テクニカル・ミーティングは、競技会開催に先立って開かれなければならない。
2. テクニカル・ミーティングは、競技委員長が議長を務め、ITD もしくは ATD、審判長、組織委員会の責任者が同席する。
3. テクニカル・ミーティングには、チームマネージャーまたはチームコーチが出席する。
4. テクニカル・ミーティングの議事は、競技会の概要説明と組み合わせ抽選である。
5. 必要であれば競技会開催中いつでも、競技会開催委員会はチームマネージャーとの協議の場を設ける。

第 3 章: 競技会実行委員会

第 13 条:実行委員会の組織と任命

1. 実行委員会は以下の委員から構成される。

- 1.1. 国際技術委員 (ITD, International Technical Delegate)
- 1.2. 副技術委員(ATD, Assisitant Technical Delegate)
- 1.3. 競技委員長 (KP, Ketua Pertandingan)
競技委員長は以下の補佐を受ける。
 - 1.3.1. 審判長
 - 1.3.2. 競技会事務局
 - 1.3.3. 計時係。彼/彼女は鐘係及びランプ係を兼ねる。
 - 1.3.4. 必要に応じて、アリーナ係
 - 1.3.5. 体重計測係
- 1.4. 審判長(Dewan W/J)。
1名の審判長と2名の審判委員。任務の遂行に当たり、必要に応じた人数の審判・採点審判の補佐を受ける。(1アリーナにつき15名のレフェリー・審判員を必要とする)
- 1.5. IT班(電子採点表示システムを利用する場合) 1アリーナにつき最大2名
- 1.6. 医師及び医務班

(Picture 16: Chart of Pencak Silat Competition Committee)

ITD 及び ATD を除き、競技会実行委員の数は 2 アリーナ以上を必要とする場合など状況に応じて調整する。

2. 競技会実行委員会の任命
競技会の開催にあたっては、競技会のレベルが国際・国内に関わらず、競技会実行委員会を構成する ITD、ATD、競技委員長、審判長、審判団は、各国の同意を得て PERSILAT により任命される。

第 16 条:実行委員会の職務と責任

1. 国際技術委員 (ITD)
 - 1.1. ITD は競技会の開催レベルに関わらず PERSILAT により任命される。
PERSILAT によって任命される国際技術委員 (ITD)は、PERSILAT の全ての規則・規約、特に、国際ブンチャック・シラット競技大会規約を熟知していなければならない。

1.2. ITD の競技会への出席にあたり、国際航空券・宿泊場所・国内移動手段・謝礼その他に対し、PERSILAT がその他の契約を提示した場合を除き、競技会開催者が全ての責任を負うものとする。

1.3. 義務と責任

1.3.1. 競技会実行委員会を補佐し、適切な助言を与えること。特に競技委員会に対しては、準備段階(例：競技会実行委員会が用意する備品・設備等を指導するなど)から競技会進行・終了まで指導・監督を行う。

1.3.2. 技術的な問題から一般的事項にいたるまで、全ての問題解決にあたり ITD の決定は拘束力をもつ。本項に関わる事項としては、必要に応じて、競技会開催中における中止、開催の延期、開催の中止及び競技会実行委員会委員の交代が含まれる。取られる措置は全て、競技会、運営者、参加者その他全てが PencakSilat の理念の元に円滑に実行されるためのものである。

1.3.3. 審判団の記録用紙を記入し、サインすること。

1.3.4. 競技会終了後 1 ヶ月以内に PERSILAT に対し報告書を提出すること。

2. 副技術委員(ATD)

2.1. 副技術委員(ATD)は ITD を補佐すること。

2.2. 競技会開催者から構成され、PERSILAT により任命される ATD は、PERSILAT の規則・規約、特にプンチャック・シラット競技大会規約を理解・習得していなければならない。

2.3. 競技会開催者側に ATD となるべき基準を満たす人物がいらない場合、PERSILAT は適当な人物を任命する。

2.4. ATD は ITD の監督下にある。

3. 競技委員長(KP, Ketua Pertandingan)

3.1. 競技委員長は、国際審判基準 Senior(Grade 1 or Grade 2) を獲得していなければならない。

3.2. 義務と責任

3.2.1. 競技会の円滑な進行と運営に対し責任を持つこと。

- 3.2.2. 競技会開催に先立ち、全チームマネージャーを集めてテクニカルミーティングを主宰すること。本ミーティングには ITD、ATD、審判長、実行委員長も出席する。
- 3.2.3. ITD に相談の後、職務に忠実でない審判員に対し警告し、必要とあれば解任すること。
- 3.2.4. 必要とあれば、競技会の進行を中断すること。
- 3.2.5. 競技の進行に対し障害となる場合、コーチを場外に出すこと。
- 3.2.6. 審判団との相談の後、問題を解決すること。
- 3.2.7. 問題を ITD に通知すること。
- 3.2.8. トゥンガル ガンダ ルグ Tunggal/ Ganda/Regu カテゴリーにおいて、選手がアリーナ外に出た時に、審判に知らせること。
- 3.2.9 競技委員長は、技術面において ITD の監督下にあり、それ以外の面においては開催委員会の監督下にある。
- 3.2.10. トゥンガル ガンダ ルグ Tunggal/ Ganda/Regu カテゴリーにおいて、競技時間に監督責任をもつ。

4. 競技会事務局長

- 4.1. 競技会事務局長は、競技会運営に関する知識及び経験が豊富であり、競技会実行委員会により任命される。
- 4.2. 競技会事務局長は事務的事項において、競技委員長を補佐する。事務局長の職務を遂行するにあたり、事務局の補佐を受ける。
- 4.3. 競技会事務局長は競技委員長の監督下にあり、事務局は事務局長の監督下にある。

5. 審判委員会 (Dewan W/J)

- 5.1. 審判委員会は審判団の指導部であり、PERSILAT により任命・認定される。委員会は電子採点表システムを採用している場合は 3 名、そうでない場合は 2 名からなる。
- 5.2. 審判団編成にあたり、競技委員長を補佐する。

- 5.3 審判員の採点結果を精査し、必要とあれば競技委員長を通じて審判員を呼び出す。
 - 5.2.3. 精査の結果、審判員の採点結果を承認し、競技会実行委員長に提出する。
 - 5.2.4. 試合結果に対し抗議があった場合、検討を行う。
 - 5.3. 審判委員会は技術面において ITD の監督下であり、事務手続きにおいては開催委員会の監督下にある。
6. 審判(Wasit)と採点審判(Juri)
- 6.1. 審判(Wasit)と採点審判(Juri)の任命
 - 6.1.1. プンチャック・シラットの競技会を担当する審判(Wasit)と採点審判(Juri)は、開催レベルの国際・国内に関わらず、PERSILAT により任命・認定される。
 - 6.1.2. 競技会を担当する審判(Wasit)と採点審判(Juri)は、国際レフェリー・審判員講座受講経験があり、PERSILAT 発行の国際レフェリー・審判員認定証を取得し、職務に適任でなければならない。
 - 6.1.3. 過去の行動記録により、PERSILAT が審判(Wasit)と採点審判(Juri)を任命する。
 - 6.1.4. 各審判(Wasit)と採点審判(Juri)は、プンチャック・シラット競技会の全カテゴリーにおいて、職務を果たす能力がなければならない。
 - 6.2. 競技会においては、1 アリーナにつき 15 名の審判/採点審判(Juri) (Wasit/Juri)に加え、2 名の競技委員長、3 名の審判委員会を必要とする。
 - 6.2.1. Tanding カテゴリーにおいては、1 名の審判(Wasit)によって競技が進行され、5 名の採点審判(Juri)によって補佐される。
 - 6.2.2. トゥンガル ガンダ ルグ Tunggal/ Ganda/Regu カテゴリーにおいては、5 名の採点審判(Juri)によって採点される。
5 名の採点のうち、最高得点と最低得点は合計スコアに反映されない。選手に対し示される獲得スコアは、この 2 名の得点を除いた 3 名の採点審判によって与えられた採点の合計である。
 - 6.3. タンディングカテゴリーにおける審判(Wasit)の職務
 - 6.3.1. アリーナ及び選手の準備状況を検査すること。

- 6.3.2. 定められた競技会規則に基づき、試合を監督すること。
 - 6.3.3. 選手の安全を確保すること。
 - 6.3.4. 試合を以下の場合に中断すること。
 - a. 選手が違反行為を犯した時
 - b. 選手がアリーナ外に出た時
 - c. 選手がダウンした時
 - d. 選手が組み合った時
 - e. 試合の均衡が著しく釣り合わない時
 - f. 注意(Teguran)、警告(Peringatan) 、違反(Hukuman)を宣告する時
 - g. 選手の負傷度合いを検査する時
 - h. 試合の進行が妨害された時
 - i. 選手が試合を放棄した時
 - j. 競技委員長もしくは ITD からの要求があった時
 - k. その他
 - 6.3.5. 試合の質を保つこと。
 - 6.3.6. 注意(Teguran)、警告(Peringatan) 、違反(Hukuman)を宣告すること。
 - 6.3.7. 採点審判(Juri)に対し、選手が行った違反行為や Jatuhan 攻撃の有効性を示すこと。
 - 6.3.8. 判断に迷う事態が発生した場合、採点審判(Juri)に相談すること。
採点審判(Juri)は両選手が中立コーナーに送られた後、アリーナ内に呼び出され、1名の審判委員会構成員の立会いの元、判断を報告する。
 - 6.3.9. 勝利者を決定すること。
- 6.4. 全カテゴリーにおける採点審判(Juri)の職務
- 6.4.1. 競技において選手を評価すること。
 - 6.4.2. 違反行為を記録すること。
 - 6.4.3. 採点に基づき、勝利者を決定すること。
 - 6.4.4. 記入した採点表にサインすること。
 - 6.4.5. 必要に応じて ITD、競技委員長、審判委員会、審判からのいかなる質問にも回答すること。
- 6.5. 審判/採点審判(Wasit/Juri)は技術面において審判委員会の監督下であり、その次に競技委員長の監督下であり、最終的に ITD の監督下にある。

7. 計時係 (TK, Time Keeper)

- 7.1. 競技会実行委員会は計時係として審判/採点審判の有資格者を任命・認定する。

7.2. 計時係の職務

- 7.2.1. 指定された時間、またはタンディングカテゴリーの予定に合せ、審判の合図に基づき、競技時計を開始・停止させること。
- 7.2.2. タンディングカテゴリーにおいて、ノックダウンされた選手のカウントを審判に示すこと。

8. 医師/医務班

- 8.1. 競技会実行委員会により任命された医師及び医務班は、競技会の全試合に出席し、立会い、監督指導しなければならない。
- 8.2. 医師はスポーツ医師、スポーツ医学の専門家でなければならない。医務班は救急車及び酸素タンクを装備しなければならない。
- 8.3. 医師は競技会の第一試合の開始から最終試合の終了まで、立会い監督しなければならない。
- 8.4. 審判の要求により、医務班は負傷した選手をアリーナにおいて検査することができる。試合続行の判断および看護のための時間は 120 秒間与えられる。
- 8.5. 医師に診察結果によって、試合続行の可否が決定される。本決定には、相手の失格によって勝利した選手が、次戦以降への参加可否の判断も含まれる。医師の診断は、選手自身の試合続行可否の判断に優先する。
- 8.6. 試合結果への抗議が発生した場合、必要に応じて医師は協議に参加あるいは証言する。
- 8.7. 医師は技術面において競技委員長の監督下であり、全体としては競技会実行委員長の監督下であり、専門的には医療責任者の監督下にある。

第 17 条 :実行委員会の制服規定

1. 競技委員長(KP, Ketua Pertandingan)
標準である黒のポンチャック・シラット道着と 10 センチ幅の黄色帯、腰布(kain samping;無地もしくは柄のある布で腰周辺を巻く)、黒の帽子(kopiah/songkok;黒のマレームスリム帽子)を着用する。左胸に彼/彼女の階級を示す国際審判章を貼付する。
(附図 17: 競技会実行委員長/副委員長の服装)
2. 審判委員会 (Dewan W/J)

標準である白のパンチャック・シラット道着と 10 センチ幅の黄色帯を着用する。左胸に彼/彼女の階級を示す国際審判章を貼付する。

(附図 18: 審判委員長の服装)

3. 審判と採点審判 (Wasit / Juri)

標準である白のパンチャック・シラット道着と 10 センチ幅の黄色帯を着用する。左胸に彼/彼女の階級を示す国際審判章を貼付する。

(附図 19: レフェリーと審判員の服装)

4. 競技会事務局長/事務局/計時係/アリーナ係

競技会開催者の提供する制服を着用する。

第 4 章 : プンチャック・シラット国際競技会

第 18 条 : プンチャック・シラット国際競技会の階層

1. PERSILAT 主催の競技会は以下のとおりレベル分けされる。

1.1. 世界選手権

1.2. 地域別選手権

1.3. その他 PERSILAT により主催される選手権 (例: 招待競技会、オープン大会、エキシビション等)

2. 特別大会

その他、PERSILAT 以外の組織により主催されるパンチャック・シラットの競技会。これらの競技会は本パンチャック・シラット国際規則が適用される。またこれらの競技会は PERSILAT と連携されなければならない。

第 5 章 : 終章

第 19 条 : その他

1. 本規則は、その他の PERSILAT が規定するパンチャック・シラット競技規則及びガイダンスに優先する。

2. 本規則に明示されていない事項は、競技会開催中に国際技術委員会 (ITD) によって審議解決される。

3. 本規則は 2012 年 4 月 1-3 日にジャカルタで開催された PERSILAT 創設国によるテクニカル・ミーティングにおいて規定され、さらに、2013 年 8 月 30 日にジャカルタで再度開催された PERSILAT 創設国によるテクニカル・ミーティングにおいて改訂された。

THE INTERNATIONAL PENCAK SILAT FEDERATION